

コード No. 10777

**Anti-Human  
Gd-IgA1 (KM55) Rat IgG MoAb**容量 : 100  $\mu$ g

はじめに:近年、ガラクトース欠損型異常糖鎖 IgA1 (Galactose-deficient IgA1; Gd-IgA1)は、IgA 腎症患者の病態発症および進展に関与する因子として注目を集めています。ヒト IgA1 分子の重鎖ヒンジ領域には O 結合型糖鎖修飾領域があり、IgA 腎症患者では一部の IgA1 のガラクトースが欠損し Gd-IgA1 として血中を循環するとともに、それらが糸球体に沈着することで、IgA 腎症に関与すると考えられています(Gd-IgA1 マルチヒット仮説)。これまでの研究から、カタツムリ(*Helix aspersa*; HAA)から抽出したレクチンを用いた測定系および、本抗体(KM55)を用いた Gd-IgA1 ELISA(コード No. 27600)により、IgA 腎症患者における血清 Gd-IgA1 レベルが、健常者あるいは非 IgA 腎症患者に比べて高値であることが示されています。さらに、本抗体(KM55)は、HAA レクチンにはない特性として、免疫組織学的手法による組織中 Gd-IgA1 の検出が可能であり、IgA 腎症患者の糸球体において Gd-IgA1 が特異的に局在することが明らかになりつつあります。今後、本抗体による Gd-IgA1 の臨床的意義のさらなる解明が期待されます。

免疫抗原 : GalNAc修飾 ヒトIgA1ヒンジ領域合成ペプチド  
H-C<sub>223</sub>PST\*PPT\*PS\*PS\*TPPT\*PSPS<sub>240</sub>-NH<sub>2</sub>  
(\*に GalNAc 修飾)

起源 : マウス×ラット ハイブリドーマ  
(マウスミエローマ細胞 × SD ラット脾臓細胞)

クローン名 : KM55 サブクラス : ラット IgG<sub>2b</sub>

精製方法 : ProteinA 精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100  $\mu$ g/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8°C 保存 5 年間安定  
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 100 $\mu$ g/mL にて使用可能  
ホルマリン固定後のパラフィン包埋切片で抗原賦活化処理を行う必要があります。  
抗原賦活化処理方法: 脱パラフィンおよび再水化後にプロテアーゼ処理を室温で 2 時間行います(推奨;Sigma 社 Subtilisin A)。

文献 : Novel lectin-independent approach to detect galactose-deficient IgA1 in IgA nephropathy. Yasutake J et al. Nephrol Dial Transplant. 2015 Aug;30(8):1315-21.

商業製品の原料としてお求めの場合、当社の許可が必要となります。